



# ペンペン草



塩尻要約筆記グループ機関紙 71 号 : 2024 年 9 月

2024 年度 ペンペン草の機関紙が完成しました。。

4 月から行事がたくさんありました。今までの活動を振り返ります。



5 月

## 筆談カフェ開催

5 月 22 日、今年も筆談カフェを開催しました。

昨年同様、大勢の人が参加してくれました。

難聴者 8 名、健聴者は伊那や木曾のサークルの人、社協への申込者など 7 名の参加があり、ペンペン草メンバーも合わせると総勢 25 名という、にぎやかな会になりました。

今年も市民タイムス、MG プレスが取材に来てくれたので、要約筆記の PR ができたと思います。その後も、市民タイムスの記者さんは、要約筆記入門講座にも参加して、体験を記事にしてくれたので、さらに要約筆記の周知につながったのでは、と思います。

難聴者からは、

- ・長々と書くより、短くまとめて書く方が伝わりやすい。
  - ・難聴者同士で、家族間の理解の程度や工夫とか、生活上のコミュニケーション手段などを話してみたいが、なかなか難聴者と出会う機会がないし、コミュニケーションも難しい。しかし、今日のように筆談メインだと内容がストレートに伝わって分かりやすかった。
- などの感想をいただきました。

ただ、最後の席の交代は、自由に移動してもらったので、「相手が難聴者か健聴者かがわからず戸惑った」というご意見を難聴者・健聴者ともにいただいたので、来年はそのあたりも検討して、よりよい筆談カフェにしていきたいと思います。

参加者の皆さんが、楽しそうな様子だったのが何よりでした。(手書き班 H)



昨年・今年の筆談カフェにご参加いただき、私たちの活動で大変お世話になっていた、難聴者のOさんがご逝去されました。享年 85 歳。8 月 25 日にお亡くなりになったそうです。筆談カフェではお元気そうに見えたのに、残念でなりません。ご冥福をお祈りしたいと思います。



6月

## 塩尻要約筆記入門講座、春の部終了

6月の日曜日午前中を使い、手書きとパソコンの入門講座を行ないました。

手書き、パソコンともに5名ずつの受講があり、昨年よりも少し賑やかになりました。

手書きの受講者には市民タイムスの記者もいて、受講経験を元に記事を書いてくれましたので、ご覧になった方もいることでしょう。パソコンコース受講者からは、さっそく勉強会見学の申し込みがありました。1人でも県の講座につながると嬉しいです。社協担当者も変わり、何か新しい風が吹いた感のある春の講座となりました。

ペンペン草の皆さまには、引き続きご協力をお願いいたします。(パソコン班 N)



手書き講座



パソコン講座

7月

## プロジェクターのことを知ろう！



7月17日の手書き班の学習会のテーマは、プロジェクターについて。手書き要約筆記ではOHCをプロジェクターに接続してスクリーンに映し出しますが、どちらかというと機械に弱い手書き班の私たち(そうではない方もいます)、意外とわからないままに使っている節があり、一度専門家に教えていただくということで企画しました。

講師は、ペンペン草パソコン班の O さん。プロジェクターのプロフェッショナルです。レジュメをもとに、丁寧に教えていただきました。

スクリーンとプロジェクターの位置、同じ高さに置けないから台形になってしまうんだね、と当たり前なのに納得し、台形補正には「タテヨコ」と「QuickCorner」の2種類があり、「フレームフィット」という機能もあるんだ、とわかったつもり。

スクリーンに合わせた4:3 や16:9の調整については もうバッチリ！かな。

おまけに、OHC からもスクリーンに合わせた4:3 や16:9などの調整ができることを知ってびっくり。

プロジェクターも OHC もいろいろな調整機能を持っているんですね。

今回木曾サークルからの参加者もあり、ペンペン草と木曾サークルの機材を使って接続してみ、「へえ～そうなんだ、知らなかった。」ということがいろいろあり、とても勉強になった2時間でした。

さて次回、これらを生かしてスムーズに設定できることでしょうか…？（手書き班 S）

【講義に夢中になって、写真撮り忘れちゃった(\*\_\*;（手書き班 H）】

\* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

「プロジェクターのことが知りたい！」にも木曾サークルから参加がありましたが、前回7月3日のペンペン草学習会にも木曾サークルの4名が参加してくださり、一緒に要約筆記の練習をしたり、要約筆記を始めたきっかけなどのお話を聞いたりして、楽しく交流しました。



8月

## 合同学習会開催

8月3日、手書き班・パソコン班合同学習会として、ペンペン草と塩尻市聴覚障害者協会、手話サークル等と共同で購入したDVD「ドキュメンタリー映画『約束』」を鑑賞しました。

生まれつき耳がきこえない今村彩子監督による、耳のきこえない人たちと災害、その10年の記録がまとめられた2本の映画です。

映画「架け橋 きこえなかった 3.11」は、東日本大震災の11日後から2年4ヵ月間にわたり、被災したろう・難聴者及びその支援者の方々を取材したドキュメント。もう一本の「架け橋 きこえなかったあの日」は、震災後の被災者の生活環境の変化とともに、熊本地震や西日本豪雨時のろう者による災害ボランティア活動の様子等の記録です。

「命にかかわる情報に格差があってはならない」

このことを伝えるべく今村監督は本作品を制作されました。東日本大震災では障害者の死亡率が健常者の2倍という統計もあるそうです。

- ・津波警報のサイレンも聞こえず、揺れが収まれば大丈夫だと思った。
- ・刻々と変化する被害状況に、原発関連の専門用語も多く、事態が把握できない。
- ・避難所でのアナウンスや支援物資の提供情報が聞こえず、周りの人の動きを窺いながらの生活で張り詰めた状況が続く。
- ・支援団体も発生直後はやるべきことの優先順位が難しかった。..

当時、震災当日から理解しがたいニュースが次々と報じられ、自身でも情報の整理がつかず落ち着かない日々であったことを思い起こすと、余震も続く状況での不安は計り知れないものであり、事実を共有することの大切さと大変さを痛感しました。

その後、避難所での生活支援も見直され、災害現場では手話で会話ができる福祉避難所、絵や文字による情報保障等、行政や福祉、医療などの分野でも対策がなされている様子が紹介されていました。

また、震災後の様々な支援活動の努力、体験を絵に残した講演活動、仮設住宅内での交流、全国各地のボランティア活動等の様子のなかで、独特な手話をつかい、日本語の読み書きも難しいある被災された男性の生活が記録されていました。震災後の生活環境の変化に応じながら、周囲から信頼され、身振り手振り等でもお互いに何を伝えようとしているのかわかるようになる。その反面、通訳者の方との関係性も印象的に感じ、伝えたい気持ちとそれを分かろうとする気持ちの大切さ、コミュニケーションと支援の難しさ等改めて学ばせていただきました。

毎日のように全国各地で災害が発生している状況で、すべての人に正しく、迅速に情報が伝わる環境とすることは重要な課題であり、日頃から意識して行動できるよう努めていきたいと思います。(パソコン班 S)



今回も、漢字クイズの達人、手書き班 Mさんから出題していただきました。

## 漢字クイズに挑戦

- 1) 以下の文の○には、それぞれ読み方が違う同じ漢字一文字が入ります。  
どんな漢字が入るか考えてみてください。

(例題) あっ今日は○月○日 ○タだ。

→答え…七(あっ きょうはしちがつなのか たなばただ。)

- ① ○日は 地○で○気に 友と飲み。
- ② 通販の下○が三○ 明日○く。
- ③ ○行に○されない俺 ○石だろ？
- ④ 不○にも 目○めて何も ○えてない。
- ⑤ 泣く我が子 辛○せいと ○き○え。

2) 次の生き物はそれぞれ何と読むでしょう？

- ①蟹      ②蠍      ③蛞      ④蝟      ⑤蛭      ⑥蛸      ⑦蝮

(答えは最後に)

いつも機関紙の発行が予定より遅れてしまい、すみません。

機関誌に載せてほしいこと、アイデアなど、何かあればご意見ください。

次号は、もっと早く出すぞ！！(の予定) (手書き班 H)

### <漢字クイズの答え>

- 1) ① 元 (がんじつは じもとでげんきに ともとのみ。)  
② 着 (つうはんの したぎがさんちやく あしたつく。)  
③ 流 (りゅうこうに ながされないおれ さすがだろ。)  
④ 覚 (ふかくにも めざめてなにも おぼえてない。)  
⑤ 抱 (なくわがこ しんぼうせいと だきかかえ。)

- 2) ① カニ ② サソリ ③ オタマジャクシ ④ ハリネズミ  
⑤ コオロギ ⑥ タコ ⑦ マムシ